

第1回 五條市デジタル交通サービス推進協議会 議事録

1. 会議議事

- 日時：令和4年11月21日 15:00～17:00
- 場所：五條市役所
- 出席者：別紙参照

2. 議事録

(1) 協議会設置要綱の制定、会長の選出

- ・ 事務局から提示の協議会設置要綱（案）について各委員から了承を頂き、協議会設置要綱として制定された。
- ・ 全会一致で神戸大学名誉教授の喜多委員が本協議会の会長に選出された。

(2) 議事

- 喜多会長（神戸大学 名誉教授）
 - ・ デジタル化、自動運転、Maasは、課題を解決する上で有力な手段ではあるが、全てを解決できるというものではない。五條市が色々なことを進めてきた中で、これまでの技術では対応できないところに上手く適用できて効果が出るか、というところを協議会で議論していきたい。

議事1) デジタル技術を活用した交通サービスの動向

- 新家オブザーバー（奈良県警察本部 交通企画課長補佐）
 - ・ 警察としては高齢者の免許返納を進めていくという視点でも自動運転を進めていくべきであると考えている。
 - ・ 現時点では、運転者の同乗や、外部からの運転制御が入るのであれば道路使用許可で実験を許可している状況だが、Level4以上は許認可制となっているので、警察も交えて取り組みを進めてほしいと思っている。
- 黒松オブザーバー（国土交通省近畿地方整備局奈良国道事務所 管理第二課長）
 - ・ 道路管理者としては、自治体と協議を進めて適切に連携しながら進めていく事が重要と考えている。
- 大久保委員（奈良交通株式会社 乗合事業部 部長）
 - ・ 奈良県内には先行事例がないので、ぜひ一緒に進めていければと考えている。
 - ・ 同時に進めている明日香村であれば、観光で使いたいという目的があると聞いている。五條市でも観光という視点があるかもしれないが、地域にとって何に困っていて何が必要なのか、何があれば地域生活を持続できると考えているのか、よ

くわかっていないという現状があるので教えて頂けるとありがたい。

■ 喜多会長（神戸大学 名誉教授）

- ・ 技術目線での議論も大事だが、地域の困り事にフィットするかという目線が重要。地域課題にすり合わせていくことも重要と思う。

議事 2) 五條市が希望するデジタル交通サービス実証実験の内容

■ 畠山委員（永谷自治会 自治会長）

- ・ 3名程度が永谷バス停から家まで2kmほど離れたところに住んでおり、永谷バス停までの足をなんとかしてほしいという声が多い。最低月に2回、病院と買い物に行く聞いており、行きは手ぶらであるが帰りは5~6kgの荷物を持って40分程度歩いている。
- ・ 道幅の狭い箇所も多いが、生コン車が頻繁に走っているため、道路が非常に傷んでいる。また冬季は25cmほどの積雪がある時もある。そういった環境下ではあるが、どういうことができるのか色々聞かせてもらえるとありがたい。

■ 吉本委員（永谷自治会 利用者代表）

- ・ 永谷地区をモデル地区として頂きありがたい。まだ車を運転しているが、もうすぐ90歳となり、近い将来乗れなくなってしまう。1日も早く実現して頂けるとありがたい。

■ 中野委員（東京大学 教授）

- ・ 実証実験ルートの技術的な課題への対応案としては、事務局提示のもので概ね問題ないと考えている。
- ・ 集落の人口は21名で大量に輸送する必要はなく、運行予定の距離も3キロ程度なので低速車両で良いと考えられる。そういった観点ではカートタイプでよいのではないか。カートタイプを導入している福井県永平寺はレベル3の遠隔操作タイプで実施しており、その技術をそのまま持ち込むのが一番手っ取り早い。
- ・ 対向車と鉢合わせの際には、自動運転車はその場に留まるか前進するしかできない。鉢合わせた相手方の車両に行き違いできるところまで後退してもらう必要がある。地域住民の了解を得ることが重要である。3Dマップを使用する方式にすれば軌道変更にも対応できると思うが、対向車と鉢合わせの際に、行き違いのための軌道変更に対応できるようになるまでには、まだかなりの時間がかかると思う。

■ 喜多会長（神戸大学 名誉教授）

- ・ カート式の車両で、坂道が続く道や轍ぼれが多い道でも走る事はできるのか。ま

た冬季は寒いと思うが風よけ等何か対応できないか。

→ 中野委員（東京大学 教授）

- ・ 一般的な道路にある勾配であれば問題なく走行できる。また、大型車によってできた轍ぼれの通過は大きな問題ではないと思う。
- ・ 冬季の防寒に関しては、メーカーに確認する必要があるが、カバーをつけたりすることができるのではないか。

■ 吉岡（代理）オブザーバー（五條警察署 交通課 主任）

- ・ 取組みとして自動運転の導入には賛成だが、永谷地区の住民が事故で命を落とすような事が起こらないようにしてほしい。冬季はアイスバーンで安全に走る事ができるのか、災害時に安全を守れるシステムがあるのか、気になるところである。

→ 中野委員（東京大学 教授）

- ・ 積雪が 25cm ほどあるという話だが、その状況では走行できないと思われる。メーカーに確認する必要がある。20km/h 以下の速度のため、アイスバーンの状況でも事故のリスクは小さいと思う。
- ・ 秋田県上小阿仁で冬季の積雪時の実験もやっているの、メーカーと合わせて対応方法を聞いてみてもいいかもしれない。

■ 油谷委員（奈良県タクシー協会五條支部 支部長）

- ・ 五條市内の公共交通のサービスレベルに差をつけたくはない。どうすれば五條市内の利便性が向上して、五條市が発展し人口増加につながられるのか、一緒に考えていきたい。

■ 大久保委員（奈良交通株式会社 乗合事業部 部長）

- ・ 乗務員の担い手不足で事業継続が難しくなっている状況である。中山間地域は、都市部と比較して自動運転の導入に対するハードルは低いと思うのでできるだけ早く進めてほしい。

■ 吉岡オブザーバー（五條警察署 交通課 主任）

- ・ 行き違いで交互信号機を設ける場合、設置機数が増えるとコストがかかるので、地域の住民に協力を仰ぐことが現実的だと考えている。

■ 喜多会長（神戸大学 名誉教授）

- ・ 乗客が転落する事故の懸念があるが、何か車両側で対策できないか。

→ 中野委員（東京大学 教授）

- ・ 可動式の柵をつけるなどの対応はできるかもしれない。メーカーに確認する必要がある。

■ 中村オブザーバー（奈良運輸支局 主席運輸企画専門官）

- ・ この自動運転の実験は無償で行うのか。
- 西本委員（五條市 市長公室 次長）
- ・ 実証実験は無償で行うことを予定している。

議事3) その他（今後の進め方について）

- ・ 特に質疑等なし

以上